

ウッドバッジ実修所
「課題研究」「実務訓練」
支援の手引き



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

目 次

ウッドバッジ実修所の訓練と本書について	1
I 参加希望者への支援	2
1. ウッドバッジ実修所への誘い	2
2. ウッドバッジ実修所課題研究への取り組み	2
3. 実修所のガイダンス	2
4. 「課題研究」課題の指導の要点とまとめ方	3
5. 「課題研究」の書式	10
II 第二教程（基本訓練）履修者への支援	11
1. 実務訓練の取組みにあたって	11
2. 「実務訓練」支援の要点	11
3. 第三教程（実務訓練）履修認定と手順について	15
4. ウッドバッジとギルウェル・スカーフについて	16
おわりに.....	18
課題研究提出用紙	19
実務訓練提出用紙（BS課程）	21

ウッドバッジ実修所の訓練と本書について

指導者訓練体系では、隊指導者訓練の組み立ては、導入訓練課程、基礎訓練課程、スキルトレーニング、上級訓練課程、ウッドクラフトコースにより構成されています。

このうち上級訓練課程であるウッドバッジ実修所では、スカウト運動の価値を再認識し実践するために、運動の正しい活動方法を理解し、実体験を通して、より実践的に、スカウト達が活動する内容を指導者として身につけていただくように設定しました。訓練を効果的に展開するために第一教程：課題研究、第二教程：基本訓練（3泊4日又は4泊5日野営）、第三教程：実務訓練として、自隊で取り組んだ結果を報告することが設定されています。研修所とは異なり実修所では、第三教程（実務訓練）の履修をもって実修所の修了が認定されます。

第一教程（課題研究）の履修の認定はトレーナーが行い、第三教程（実務訓練）の履修認定は県連盟コミッショナーが行います。ですが、コミッショナーには第二教程（基本訓練）参加前から第三教程（実務訓練）まで一貫して関わり、参加者が第二教程（基本訓練）で得た内容の展開や、持ち帰った課題などに自隊で取組むことによって、より効果的な隊運営ができるよう的確な支援をお願いいたします。

ウッドバッジ実修所 第二教程（基本訓練）は、当該隊の指導者として、基本的な隊運営方法、プログラム展開方法など、プログラムだけに特化すること無く、隊を運営していくための、あらゆる事に対して能力向上を目指すため、「自隊の様々な問題解決」についても、隊指導者が日常の活動の中で解決していけるように支援していただく「インサービス・サポート」を、今まで以上に重要な支援として、指導者が必要な時に、必要とされる支援として考えています。定型訓練に参加することも、このインサービス・サポート（任務中の支援）の一環としてお考えいただき、コミッショナーの皆様には、隊指導者とのコミュニケーションを深める絶好の機会として、積極的に支援して頂くことが期待されます。

本書は、コミッショナー・トレーナーの支援が効果的に実施できるように、「課題研究」と「実務訓練」のねらいと支援のポイントを明確にし、共有することを意図して作成されています。

I 参加希望者への支援

1. ウッドバッジ実修所への誘い

ウッドバッジ実修所への誘いの第一歩は、ウッドバッジ研修所で所長から上級訓練であるウッドバッジ実修所についての誘いがあります。ここでは研修所で学んだことをもとに、最低一年間のプログラム展開を経験した隊指導者を対象としており、当該部門の隊長としてのプログラム推進能力を高めるための訓練が準備されていることをお知らせします。

研修所を履修された隊指導者は、普段の活動での疑問点や改善点を団内外の先輩指導者やコミッショナーからの指導を受けると共に、地区等で開かれるラウンドテーブルや各種の定型外訓練への参加のほか自己研修により解決の道を探ります。

これらの多く機会を活用してコミッショナーは、それぞれの隊指導者の状況に応じて実修所参加による問題の解決や指導技術の向上を促し、課題研究について取り組むよう、機会あるごとに隊指導者たちに働きかける必要があります。

2. ウッドバッジ実修所課題研究への取り組み

参加希望者の課題研究への取り組みに当たっては、直接指導するほか必要に応じて所属県連盟のトレーニングチームと連携のうえトレーナーを紹介し、参加希望者に各種の支援が受けられるようにして下さい。

個別支援の要請を受けたトレーナーは、コミッショナーと協議のうえ参加希望者と面談し、隊の状況や活動の状況、スカウト数など参加者の背景を把握した上で、参加者と一緒になって課題研究に取り組む必要があります。

一般的な成人の特性として、「指導者自らが納得もしくはその必要性を感じなければ、参加意欲が少なく、積極的に課題に取り組まない」と言われています。このため、普段の活動や隊運営の中で不安や疑問に思っていることについて、「実修所に参加することによって何かをつかめるのでは」、「状況を改善するきっかけになるのでは」という気持ちに導くことが大切です。またスカウト達により楽しく興味が湧くスカウティングを提供するためにも、実修所に参加して他の参加者やスタッフと交流しながら、情報を交換することの意義と重要性を知らせることも必要です。

参加希望者は、学生あるいは社会人として様々な社会的な経験を持っているため、性急な課題研究への取り組みは、参加意欲の低下や訓練ニーズの抽出が中途半端なものとなる危険性があることを理解する必要があります。また、そのような課題研究の取組みでは、訓練の効果が充分ではないものになってしまう恐れがあります。このため特に余裕を持って課題研究に取り組める時間的配慮をぜひお願いします。

3. 実修所のガイダンス

隊指導者に実修所への興味を抱かせることの第一歩として、実修所における訓練内容や生活について情報を提供する必要があります。

ポイントとしては

① 実修所の組み立て

実修所は、「第一教程（課題研究）」と「第二教程（基本訓練）（3泊4日又は4泊5日のキャンプ）」と「第三教程（実務訓練）」によって成り立っていることなど全体像を把握させてください。

② ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）の目的

プログラム推進能力を高めることを目的としています。
スカウティングらしいプログラムが企画できるようになり、その中でスカウト、保護者および地域社会に受け入れられるために必要なアプローチについても学びます。

③ 学習の目標

ウッドバッジ実修所の参加者は、このコース修了後、次のことが達成できる。

1. スカウティングの原理と方法に則ったプログラム企画ができる。
2. プログラムプロセスに従った教育効果の高いプログラムが推進できる。
3. スカウト、保護者及び地域社会に対するアプローチを効果的に実施できる。
4. 野営生活を通じ、高度の班野営を体験することにより、スカウティングの本質の理解を高める

自隊の課題、問題点の改善や解決を図り、自隊の隊運営、特にプログラムプロセスに反映させることに意義があります。従って、参加者が所属している部門の実修所へ参加することを前提とします。

④ 学習の概要

参加型学習について、当該部門のセッションの構成と内容、グループワーク、チューター、研修所との違いなどについて簡単にお話下さい。

⑤ 実修所での生活

キャンピング、食事、入浴など生活全般、参加者同士の交流、現地の状況など体験を通じてお話下さい。特にキャンピングは、高度な野営技術を用いてのものを目指しています。

⑥ 第二教程（基本訓練）の開催時期

今から課題研究に取り組み、仕事や学業のスケジュール調整により参加可能な当該部門の実修所開設時期についてスケジュールも含めてお話下さい。

⑦ 第二教程（基本訓練）の申込期限

参加申込期限は基本訓練開始日の約1か月前となっていますので、所属県連盟の事務的手続き等の期間も考慮して課題研究への取り組みを指導してください。

⑧ その他

コミッショナーご自身の体験から参考になる事柄についてお知らせください。ガイドランスに当たっては、当該課程の基本日程表、野営場案内図、写真等を活用すると実修所への興味や参加意欲の高揚を図れると思います。

また、初期の段階からあまり高圧的、指示的に参加を強要すると、かえって参加に対する意欲が低下してしまうので注意が必要です。

4. 「課題研究」課題の指導の要点とまとめ方

「課題研修」ではなく「課題研究」ですので、取り組んだことを列挙するだけでなく、そのことに対して自分の考えや意見をまとめるように指導して下さい。

課題研究は部門ごとに6つの項目で成り立っています。各課程によって多少の違いはありますので、課程ごとに支援のポイントを示していきます。

(1) ビーバースカウト課程

【支援のポイント】

- 課題1：①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。
②自隊のスカウトを観察し、スカウトが興味ある事柄を列挙してください。

スカウトや保護者のニーズをプログラムに取り入れることは、スカウトが楽しめ、保護者に受け入れられるプログラムを考えるときの前提となります。第二教程（基本訓練）では、各種ニーズをどのように魅力あるものに膨らませてプログラムを企画していくか、ということを考えていきます。そのために、課題研究の第1は、ニーズの集約から始まります。

①は保護者のニーズの集約です。ビーバースカウト年代にあっては、保護者のニーズが特に重要となってきます。保護者のニーズとは、保護者の方々の「子どもにこんな風に育って欲しい。」という願いがこれに当てはまります。調査する方法はいろいろあると思います。この年代にとって、積極的に保護者とコミュニケーションをとることは、この活動への理解を得るためにも必要なことです。

②はスカウトのニーズの集約です。この年代の子どもたちは、自分たちのニーズというものがあまりはっきりしていません。ですから、直接スカウトにニーズを聞くよりも、スカウトの状態をよく観察し、興味のあること、夢中になっていることなどを見つけることで、ニーズを見つけることができます。

①②とも、実際の現状や行動・活動を列挙してから、自分の意見として保護者のニーズ、スカウトのニーズとしてまとめることが、研究となります。

<まとめ方>

様式はありませんので、箇条書きで記述させてください。

課題2：課題1のニーズ等にビーバースカウト隊の活動の目標を加味し、自隊で実施する隊集会実施計画書（1回分）を作成してください。

この課題では、課題1で集約したニーズをうけて、仮想でよいので2時間程度の隊集会を考えます。この時、この年代の特性やニーズにビーバースカウト隊の活動の目標を加味することは、もともとのニーズをどのようにして実りのあるものに発展させて、豊かな（スカウトにとっては楽しい、教育的効果のある）プログラムにしていくのかに関わってきます。

<まとめ方>

隊長ハンドブックの様式に沿って作成させてください。

課題3：自隊の年間プログラムを評価し、問題があれば改善策とその理由を示してください。（年間プログラムを添付してください。）

この課題では、自隊の年間プログラムの問題点に気づいてもらうことを狙っています。何が問題なのかを評価できればよいのですが、参加者の経験によっては、問題があることがわからない。といった場合も考えられます。そのため、活動内容、活動目標、進歩課程などについてビーバースカウト活動に照らし合わせて見直すことにより、問題ははっきりしてくるでしょう。また、改善する方法も記述しますが、なぜその方法をとるのか、そのことによってスカウトにどのような効果が期待されるのかを考えながらまとめることを指導してください。

<まとめ方>

隊集会ごとに①現状②問題点③改善点④得られる教育的効果の順で一覧を作成させてください。また、自隊の年間プログラムを添付させてください。

課題4：①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。
②課題2の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。

この課題は全課程共通です。新指導者養成体制では指導者の養成については、個々の指導者の置かれたそれぞれの環境において、スカウトによりよい活動を提供できるよう、それぞれの地域で継続的に指導者を支援していく「インサービス・サポート（任務中の支援）」について総合的にとらえました。この「インサービス・サポート」の中心にあるのが団です。（定型訓練、定型外訓練等もそのサポートの一環としてとらえています。）そのために、団は自分にどのような支援（手助け）をしてくれるのだろうか。といったことを理解してもらうために団会議、団委員会の機能と役割を理解してもらいます。この課題を通じて、「インサービス・サポート」について参加者に理解してもらうことが大切です。

その「インサービス・サポート」を具体的にどのように受けることができるかを考えるのが②の課題です。団委員会やその他、とあるように、団委員会だけでなく、保護者、団外の人、コミッショナー、トレーナー、地区、県などなど多方面からの支援が可能となってきます。どこから、誰から、どのように（どのような）支援を受けることができるのかを具体的に考えることができるように、ヒントを提示しながらご支援下さい。

<まとめ方>

- ①は、機能と役割をそれぞれ列挙させてください。
- ②は、課題2の隊集会に必要な支援を項目立てし、誰から支援を受けるのかを項目ごとに記載させてください。

課題5：スカウトを集会に参加させるために自隊で工夫していることを記述して下さい。さらに今後工夫しようと考えていることがあればあわせて記述して下さい。

ビーバースカウト年代においては、毎回の隊集会に参加することこそが大切なことです。活動が楽しくなければ参加しない。さらに、保護者の送り迎えを考えたとき、保護者に受け入れられる活動であるかということ大切なことです。

この課題では、実際にやったこと、やっていることを記述し、さらに発展してやれることを考えます。

<まとめ方>

工夫している点を箇条書きに記述させてください。

課題6：プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

これは研究課題というものではありませんが、当該コースのニーズを出していただくものです。あくまでもプログラム作成に特化した課題を書かせてください。他の課題はインサービス・サポートにより県連盟等での対応をお願いします。

<まとめ方>

箇条書きにさせてください。1文に1ニーズとします。語尾を明確にしてください。（「理解したい」「身に付けたい」「知りたい」等）

(2) カブスカウト課程

【支援のポイント】

課題1：①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。
 ②自隊のスカウトの憧れや興味を調査し、集約してください。
 ③地域社会におけるカブスカウト隊に対する期待を調査し、集約してください。

この課題は、スカウトのニーズ・保護者のニーズ・地域社会のニーズなどをどのようにプログラムに発展していったらよいかを考慮して各種計画書に反映するものです。カブスカウト年代になると、自分のニーズといったものが具体的に出てきます。また保護者は抽象的に「こんな子供に育ててほしい」という願いになるでしょう。そして地域社会では具体的な奉仕活動が出てくるのかもしれませんが。

大切なのは、これらニーズをそのままプログラムにするのではなく、指導者が工夫を凝らすことによって、スカウトにとっては魅力あるプログラムとなっているかということです。そのための基礎的な理解を促すための課題です。

特に親や地域のニーズについては、抽象的な表現になることが予想されます。そこから具体的な活動を研究させてください。

<まとめ方>

箇条書きで構いません。3つのジャンルに分けて記載させてください。親や地域のニーズに対しては、達成可能な活動を明記させてください。

課題2：隊集会を行うためのプログラムプロセスを図示し、留意点を記述してください。

プログラムプロセスとは、プログラムの立案からプログラムの実施、プログラムの評価反省までのプログラムに関わる一連の流れや人的管理を含むもので、その手法を採用する意義は、プログラムを作成する手順を示し、各段階における留意・注意点を明確にでき、その時点での修正を客観的に行うことができることにあります。人的・物的管理もこの中に含まれます。

カブスカウト活動は、組が中心です。隊集会は積み重ねた組集会の成果を発表する場です。

隊集会を行うために、どのようにプログラムプロセスを活用するとよいのかを考え、図示するものです。スカウトの成長やカブスカウト活動を考えたとき、どのような流れで隊集会につなげていったらよいのかを考えます。テーマを膨らませるための会議、プログラム委員の活用などにも留意する必要があるかもしれません。

留意点については、スカウトをわくわく、どきどきさせる活動を提供するためにプログラムプロセスの各会議・集会で、どのような注意点・留意点に気をつければよいかについて考えていきます。隊長HBを参考にまとめさせてください。

<まとめ方>

時系列にプログラムプロセスを図示し、その脇に留意点を記載させてください。

課題3：ある月の自隊のプログラムプロセスの実情を評価して下さい。問題があれば改善案とその理由を示して下さい。(プログラムプロセスには、プログラム会議・デンリーダー集会・デンコーチ集会・組長集会・組集会(1回～2回)・隊集会が含まれる。)

この課題は、課題2と現状との比較になります。参加者が問題に気づいていない場合がありますので、気づかせてあげることが必要です。スカウトのニーズ・保護者のニーズなどが年間テーマ会議の段階で盛り込まれているか、それぞれの会議や集会在自隊で行われているのか、いないのか、その問題点は何なのか、改善すべき点は何かを書かせてください。

<まとめ方>

隊集会実施計画書を添付し、①現状②問題点③改善点の順で一覧を作成させてください。

課題4：全課程共通

5ページ参照

注：CS課程は、「②課題3の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述して下さい。」となります。

課題5：カブ隊の活動目標や進歩のあり方について、自隊の年間計画をふりかえり、その改善点を考えてください。

年間計画において、隊で修得すべき課目、課程で修得すべき課目を明確にすることが大切です。修得課目は年度の前半で完修できるように、年間プログラムに反映させなくてはなりません。課目とプログラムとの整合性やカブ隊の活動目標等のバランスのよい配置がなされているでしょうか。バランスが良くなければ、どのように改善したらよいのかを考えさせて下さい。

<まとめ方>

文章化させた表現でかまいません。修得課目との整合性や、活動目標とのバランスが悪ければ、今後どのように取り組むのかを書かせてください。

課題6：全課程共通

5ページ参照

(3) ボーイスカウト課程

【支援のポイント】

課題1：班長会議を開催し、スカウトの憧れや興味を新たに集約し、 ① 集会 ②班長訓練 の各計画書を作成してください。

スカウトのニーズを集約し、指導者としてどのように工夫をこらしスカウトにとって興味あるものに発展させていくか。充実した隊集会を行うためには、班集会在しっかりと行われる必要があります。そのため、班長の役割はとても重要です。

1 サイクル分（1 回分）の計画書を作成するように指導してください。

<まとめ方>

リーダーハンドブックの様式を活用して作成させてください。

課題 2：課題 1－①の隊集会を行うためのプログラムプロセスを図示し、実行のために必要な留意点を記述してください。（プログラムプロセスには、班会議、班長会議、班長訓練、班集会（班の活動）、隊集会が含まれること）

カブスカウト課程の課題 2 と考え方は同じです。ボーイスカウト課程の隊集会は班の競争の場であるといえます。隊集会で勝つために、班で秘密の訓練をする。班が班長を中心にうまく機能するために、プログラムプロセスがどのように流れたら効果があるか。そのために留意する点をまとめます。

<まとめ方>

時系列にプログラムプロセスを図示し、その脇に留意点を記載させてください。

課題 3：自隊の現在の年間プログラムを活動内容および進歩課程の観点から評価し、改善点を記述してください。

ビーバースカウト課程、カブスカウト課程の課題 3 と共通。

自隊の年間プログラムの問題点に気がつかない場合もあります。また、問題を感じていても改善するためにどうしたらよいかに気づきにくい場合もあります。このような場合、支援者からの助言によって気づくこともあると思います。

<まとめ方>

隊集会ごとの活動内容の概要と評価を箇条書きにし、それぞれに対してスカウトの進歩がどのように取り組まれていたかを記述させてください。

また、自隊の年間プログラムを添付させてください。

課題 4：全課程共通

5 ページ参照

課題 5：実際に行われた隊集会 3 回分について、計画書を持参するとともに、プログラムプロセスの各過程それぞれの評価と改善点を記述してください。（行われていないプロセスの過程については行うための改善策を記述してください。）

ここでは、一連の課題研究課題で研究した隊集会までのプログラムプロセスと、実際に行った自隊の隊集会までのプログラムプロセスの違いが明らかになってくると思います。プログラムプロセスの各過程においてどんな問題点があるのか。改善することによってスカウトの自主活動がどう促進されていくかをあわせて考えてみることは、第二教程（基本訓練）での研修がより深まることと思います。

自隊での課題が明確になるよう、助言してください。

<まとめ方>

隊集会ごとに①現状②問題点③改善点④得られる教育的効果の順で一覧を作成

させていただきます。また、自隊の隊集会プログラムを添付させていただきます。

課題6：全課程共通

5 ページ参照

(4) ベンチャースカウト課程

【支援のポイント】

課題1：スカウトのニーズにより作成された隊集会、またはプロジェクトの計画書作成までの間において、隊長として留意し、指導した点を記述してください。

隊集会・プロジェクト、どちらの計画でも良いので、隊長としてどのような点について支援・指導したかを詳しく書き出してもらいます。

<まとめ方>

隊集会計画表・プロジェクト計画書を添付し、隊長としてどのような点をどのように指導したのか、またその理由についても記載するように指導してください。

課題2：ベンチャースカウト年代の特性を理解し、自治の活動により個人の成長を図るために、隊長の役割を果たす上で資質を向上するための自己研修をおこない、その内容・結果をまとめてください。

ベンチャースカウト活動は、より高度に、専門的に、そして社会的にメッセージ性の高いものとなってきます。自治の活動が中心となるスカウト達に接するためには、様々なスキルが必要となってくると思います。スカウトが求めるものを提供できるようにするために必要な技能から、スカウトのニーズを発展させていくためのコミュニケーション技能など、ベンチャースカウト活動や年代の特性を考えたら様々な研修の必要性が理解できることでしょう。スカウトの成長を見ずえて、隊長として、何の研修の必要性を感じ、実際に行ったのか。その内容・結果をまとめることがこの課題です。

<まとめ方>

①スカウトが求めたもの②隊長として自身に必要だと考えた研修③その内容と結果を一覧にして記載させてください。

課題3：隊における役割（議長、グループのチーフ、記録、会計等）を遂行するために必要な、スカウトに対する訓練をまとめてください。

先にも述べましたが、ベンチャースカウト活動は自治の活動です。それぞれが自分の役割に責任を持って活動に参加できる。そのために、隊長はスカウト個人が役割を果たすことができるように指導・助言をしていかななくてはなりません。スカウトが身につけてほしいものは何か。そこからスカウトに対する訓練を考えて見る必要があります。

<まとめ方>

①隊でのスカウトの役割 ②身につけて欲しい内容を一覧にして記述させてください。

課題4：全課程共通

5 ページ参照

課題5：ベンチャー隊の活動におけるプロジェクトとは何か、あなたの考えをまとめてください。

ベンチャースカウトの活動には、隊集会とプロジェクトがあることはご承知のとおりです。それぞれの活動は、違ったプログラムプロセスを持ち、スカウトの成長に関与しています。隊集会＝プロジェクトではないのです。そのことを念頭に置いて、ベンチャー年代のスカウトにとって、プロジェクトを遂行していくことはどのような意味があるのかを今一度考えてみることも必要かもしれません。その上で、隊長として「こうスカウトが育って欲しい」という思いを加味させて課題に取り組んで欲しいものです。

<まとめ方>

特に様式はありませんが詳しく書くように勧めてください。

課題6：全課程共通

5 ページ参照

5. 「課題研究」の書式

様式については特に決まりはありませんが、A4判の用紙に横書きで課題毎に記述し、左綴じとしてください。また「ウッドバッジ実修所第一教程（課題研究）」の表紙に必要な事項を記載し表紙として下さい。参加申込に当たっては「ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）参加申込書」をその上に付けてください。

課題研究表紙には、課題ごとに指導をして下さった方のお名前と、指導・助言の内容を書くことになっています。課題研究の認定はトレーナーですから、認定トレーナーの欄に署名をいただくとともに、課題研究と一緒に必ず指導者手帳を提出させ、ウッドバッジ実修所第一教程課題研究認定者欄にも併せて署名・捺印をしてください。但し、申込時には指導者手帳は提出する必要はありません。

Ⅱ 第二教程（基本訓練）履修者への支援

1. 実務訓練の取組みにあたって

第二教程（基本訓練）を終えて各地域へ戻った参加者は、第二教程（基本訓練）研修中の班担当（グループ担当）と連絡を取り、指導・助言を受けることはありません。第二教程（基本訓練）を履修した段階で参加者の支援は県連盟コミッショナーにお願いすることになります。ですから、参加者とは出来るだけはやく接触する機会を持ち、実務訓練への取組計画と一緒に立案するようお願いします。

実務訓練は、プログラムトレーニングで策定したプログラムを実際に自隊で展開する必要があります。年間プログラムの予定などもあり、すぐに実行に移すことができないことも考えられるので、一年間という期間を設けています。あわせて、参加者がプログラムトレーニングの最後のセッションで、課程によっては第三教程（実務訓練）に向けての自己研修計画を策定しますので、この内容についてもその意図を確認し、どのように取り組めばよいかアドバイスをお願いします。

面談では、無事第二教程（基本訓練）が終わったことを報告されると思います。まずは参加のねぎらいと体調の変化の有無、生活全般などの話題からはじめて頂いてよいと思います。

参加者は帰宅し、日常に戻り何かと忙しい時間を過ごしていることが考えられます。コミッショナーも第二教程（基本訓練）に送り出し、また帰宅の報告を聞きほっとされていることでしょうが、素早い取組みが良い支援につながり、結果的に修了率が向上することにもつながります。

参加者は、第二教程を履修した結果モチベーションが向上し、学習を通じて「これなら出来る」「こうすれば解決できる」という自信や確信を持った反面、「自隊で本当に実践出来るだろうか」「他の指導者に受け入れてもらえるだろうか」という不安な気持ちを持つことがあります。特に参加者の役務が隊長でない場合にこの傾向が見られ、実務訓練に取り組む中で、参加者自身の急激な変化や積極的な取組みが受け入れられず、非協力的な状況が顕在化する心配があります。こういったことを防ぐためにもコミッショナーは**各隊の他の指導者や団委員とのコミュニケーション形成を図り、各隊の指導者が一丸となって協力するよう指導・支援**することも必要となります。

2. 「実務訓練」支援の要点

実務訓練は、隊指導者上級訓練課程における最後の学習段階です。

各課程によって課題の内容は違っていますが、第二教程（基本訓練）で策定したプログラムを実際に自隊で展開し、評価することにより今後の改善点を見いだす。また、自隊でのあらゆる問題点に対しても、改善点を見いだすような支援が必要となります。これらの課題を行う上での**保護者や地域社会へのアプローチの実践と報告**などがあります。

実務訓練によって、参加者が第二教程（基本訓練）での学習の結果を隊の運営に反映するとともに、個々の資質・経験に応じて努力し、今後も隊指導者として意欲的に取り組んでいくことが期待されます。成人であっても青少年と同様に「成し遂げた喜び」成就感、達成感を得られることが次の自己研修につながることをよく認識する必要があります。このため支援にあたっての基本的なあり方は、参加者が実際の隊活動に持続的にかつ意欲的に取り組むことができるように、インサービス・サポートにより必要な時に、必要とされる支援や助言をいつでも受けることができるということを伝える必要があります。

実務訓練の課題内容は、各課程によって表現は異なりますが、実務訓練で策定したプログラムをプログラムプロセスにそって実施・展開し、その中で自隊の改善点を見つけ、解決するための研修計画を立てて実行し、さらに良いものにしていく。という課題そのものが「PDCAサイクル」となっています。

さらに、全ての課程で共通なのが、保護者や地域社会へのアプローチです。各課程によってアプローチの仕方は変わってくると思いますが、スカウト活動が開かれたものであり、保護者や地域社会に認知されるべきものである。ということ踏まえ、ご指導ください。

(1) ビーバースカウト課程

課題1：第二教程（基本訓練）で作成した隊集会プログラムを含み、計3回の隊集会実施計画書を作成して実施し、その状況の報告と評価及び今後の改善点について報告してください。

（要点）

第二教程（基本訓練）「§9 プログラム企画Ⅱ」で一つ作成、自隊で二つ作成します。

- ① 隊集会実施計画書記入用紙は自隊の記入用紙を使用してください。（ない場合は隊長ハンドブックの用紙を使っても結構です）
- ② それぞれの隊集会について、実施した状況と評価をA4判縦1枚、横書きでまとめてください。
- ③ 今後の改善点については、実施した隊集会の状況と評価を踏まえたものを、A4判縦、横書きでまとめ、記述してください。枚数の制限はありません。
- ④ 改善点は改善点を箇条書きにするだけでなく、改善に至るまでの手順を含め記述してください。

課題2：第二教程（基本訓練）でリストアップした「自隊の課題」について、コミッショナーやトレーナーの支援を受けながら改善計画を立案してください。また、その取り組み状況と評価を報告してください。

（要点）

第二教程（基本訓練）「§16 第三教程（実務訓練）に向けて」でリストアップした「自隊の課題」について、コミッショナー、トレーナーと話し合い、「具体的な取り組み方法（改善計画）」をたて、その計画にそって実際に展開します。

- ① A4判縦、横書きでまとめてください。
- ② 自隊の改善点一項目ごとにまとめてください。
- ③ 大きな制作物は写真に撮って内容説明とともに添付してください。
- ④ 音声によるものはCD化するか、朗読原稿を添付してください。

課題3：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

（要点）

課題1・課題2のどちらか一方でも、あるいは両方について行っても良い。

- ① A4判縦、横書きでまとめてください。
- ② 単に「〇〇した」だけを羅列するのではなく、保護者や地域社会の反応を聴取し記入してください。

(2) カブスカウト課程

課題1：自隊のある月のテーマにより、第二教程（基本訓練）で作成した月間プログラムの手順に従い、プログラム委員(会)・リーダー集会・デンコーチ集会・組長集会・組集会・隊集会を実施し、その状況の報告と評価を記述してください。

- ① 記入用紙は自隊の記入用紙を使用してください。(ない場合は隊長ハンドブックの用紙を使っても結構です)
- ② それぞれの集会用紙に記入し、その後ろに状況と評価をA4判縦1枚、横書きでまとめてください。

課題2：課題1で実施した月間プログラム（プログラムプロセス）の評価を踏まえて、今後の改善点について記述してください。

- ① A4判縦、横書きでまとめてください。枚数制限はありません。
- ② 改善点は改善点を箇条書きにするだけでなく、改善に至るまでの手順を含め記述してください。

課題3：課題1で取り組んだプログラムを実施するにあたり、また今後の隊運営に生かす為に、学習したことや身につけた知識・技能・心構えについて、取り組んだ内容と結果を、報告してください。

- ① 次の様式に従って項目を作成し、その成果を添付してください。(例)

課題3：課題1に対する隊長としての自己研修	
知識	①その物語の特徴 ②主人公のポーズや言葉 ③主人公の扮装
技能	①デンコーチに対する説明のしかた ②主人公の動き ③表現力をつける
心構え	①スカウトをワクワクさせる演出をイメージする

- ② 添付するものについて
 - ・文章化したものはA4判縦、横書きでまとめてください。
 - ・大きな製作物は写真に撮って内容説明と共に添付してください。
 - ・音声によるものはCD化するか、朗読原稿を添付してください。

課題4：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

- ① A4判縦、横書きでまとめてください。
- ② 単に「〇〇した」だけを羅列するのではなく、保護者や地域社会の反応を聴取し記入してください。

(3) ボーイスカウト課程

課題1：計画した隊集会およびプログラムプロセスの各過程を実施し、その状況報告と評価および今後の改善点について、報告書としてまとめてください。

- ① 状況報告については、実施内容がわかるよう簡潔に記述し、写真等を添付するとわかりやすいです。

- ② 評価及び改善点は箇条書きにするだけでなく、改善については自分自身がどのようにかかわっていくのかを記述してください。
- ③ A4判縦、横書きでまとめてください。枚数制限はありません。

課題2：課題1で作成した実施報告書における評価と改善点に対する自己研修計画を策定し、最低1つの成果を報告してください。

- ① 課題1の実施後それらをふまえて、以下の項目について自己研修計画として記述してください。
 - ・ 隊集会において何ができなかったのか。
 - ・ どのようなことが困ったのか。
 - ・ 自分に足りなかったことは何か。
- ② ①について記述した計画のうち、最低1つの成果（具体的に行った内容）とそれに対して支援者のコメントをつけてください。
- ③ A4判縦、横書きでまとめてください。添付資料についてはA4判ファイルに綴じられるよう工夫してください。

課題3：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

- ① A4判縦、横書きでまとめてください。
- ② 単に「〇〇した」だけを羅列するのではなく、保護や地域社会の反応を聴取し記入してください。

(4) ベンチャースカウト課程

課題1：第二教程（基本訓練）で修得したことを活用・応用し、実行したことを以下の項目についてまとめ、関係する資料を添付して報告してください。

- (1) プログラムプロセスでどのようにアドバイス、指導、評価したか
- (2) 実行後、第二教程（基本訓練）参加前とプログラムがどのように改善されたか
- (3) あなた自身、スカウトにどのような変化をもたらしたか
- (4) 上記(1)～(3)の結果から今後の改善点

- ① A4判縦、横書きでまとめてください。
- ② この一連の課題は、プログラムをより豊かなものにするために、隊長としてスカウトにどのように関わったかを報告してもらうものです。プログラムプロセスの様々な場面での関わり、また隊長としてスカウトにどのように接することにより、スカウトがどのように変化・成長していったかを報告するものです。
- ③ どのような場面で、どのようにアドバイス、指導し評価したのかを、具体的に記述してください。
- ④ ②によって、プログラムがどのように改善されたか、第二教程（基本訓練）参加前と参加後とを記述し、変化がわかるように記述して下さい。
- ⑤ さらにプログラムを豊かなものにするために何をしたらよいかを今後の改善点として記述してください。

課題2：上記の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会へのアプローチした内容・結果を報告してください。

- ① A4判縦、横書きでまとめてください。
 - ② プログラムまたはプロジェクトが自己満足で終わらずに(運動内で終わらずに)、一般社会にこの活動をどれだけ広めることができたのかを検証して下さい。社会への貢献の度合いはどれほどだったかを記述することです。
 - ③ 内部評価で終わらずに外部評価(第三者評価)を得ることによって運動を他に知らしめることができるようになることがねらいです。
- ※ 上記の報告は作文ではなく、ありのままを記述し評価反省(客観的視点)をすることであり、今後のプログラムおよびプロジェクトの改善をするためのものであることを忘れないでください。

3. 第三教程(実務訓練)履修認定と手順について

手順1: 第二教程(基本訓練)履修者

- ① 実務訓練報告書(以下、報告書)に表紙(様式1)添付の上、支援者に提出し、「指導助言した事項および所感」を記入していただく。
- ② 所感記入後、所属県連盟へ報告書を提出する。

手順2: 県連盟事務局

県連盟コミッショナーへ報告書を送付し、所見の記入と第三教程履修認定を受ける。

手順3: 県連盟コミッショナー

報告書に所見を記入し、履修認定(様式1へ署名)を行い、県連盟事務局に返送する。

手順4: 県連盟事務局

県連盟コミッショナーの所見と第三教程履修認定署名・捺印を確認し、日本連盟事務局へ様式1のコピーを送付する。(様式1の原本は、報告書と共に履修者に返却してください。)

手順5: 日本連盟事務局

- ① 県連盟事務局より提出された様式1に必要な要件が記入されていることを確認し、修了証を交付する。初めて隊指導者上級訓練を修了した者にはウッドバッジ2ビーズ、ギルウェルウォグル、ギルウェルスカーフを同送する。
- ② 提出された様式1は日本連盟で保管する。

手順6: 県連盟事務局

- ① 修了者へ修了証およびウッドバッジ他を伝達する。
- ② 報告書を返却する。



4. ウッドバッジとギルウェルスカーフについて

ウッドバッジ実修所の全教程を修了した方には、ウッドバッジ2ビーズとギルウェルスカーフ、およびウォググルが授与されます。ウッドバッジは各国で、上級訓練を修了した隊指導者に授与されています。

前項でもふれたようにウッドバッジを着用することは、「必要な訓練を修了し、いつでも指導者として奉仕する準備ができています」ことを自他ともに認めたしるしであるため、自隊での通常の活動時にも着用します。

ウッドバッジが訓練修了者に授与されることになった経緯が、世界スカウト機構発行書籍「アダルトリソーシスハンドブック」に記述されているのでご紹介します。

スカウティングは1907年に始まりましたが、「成人指導者訓練」と後に呼ばれるようになったものも、スカウト運動自体と同じくらい古いものです。B-Pは、自身が考案したものを広め、スカウティングの自然な成長を支援することにほとんどの時間を割いていましたが、草創期には隊長訓練にも関わっていました。個人的には1911年と1912年に2回コースを運営していますが、このコースにおいて、彼は夜間のセッションとして一連の講話を行いました。後に「ウッドバッジ訓練」となるはずのものの方針と特性は1913年の時点で早くも確立されていました。訓練はパトロールシステムを通して理論と実践をバランス良く組み合わせ提供されました。しかしこれが訓練の原型として定型化されることはありませんでした。

第1次世界大戦後になりスカウティングが驚くべき成長を再開してはじめて、B-Pは指導者の善意と情熱に対して相応しい訓練を加えるという問題に本気で取りかかりました。「私が死んでも、将来のスカウティングの指導者がスカウティングとは何であるか、私の意図が何であったのかを確実に理解できるようにする」ためでした。

この目的を達成するためには、プログラムと場所が必要でした。ギルウェルパークという場所は1918年にB-Pが見つかりました。ド・ブア・マクラレン氏 (Mr. de Bois Maclaren) の寛大ななはからいによりこの場所は1919年にイギリス連盟の財産になり、スカウトのためのキャンプ場とスカウト指導者のための訓練センターが造成されました。最初の訓練コースがここで1919年9月8日に始まり、1913年に設定された基本的な方針に沿って運営されました。『隊長の手引き (Aids to Scoutmastership) 』も同じ年に出版されました。このコースにはすべての要素が網羅され、基本原則を扱う理論編と、1週間のキャンプによる実践編と、訓育の現場で完成されるべき組織運営編からなる完全な定型が作り出されることになりました。最初期から、訓練場所と訓練手法とコース運営に携わった

最初のウッドバッジはディニズルというズールー族の族長が所有していたネックレスから作られました。これは1888年B-Pが現役の時にズールーランドで見つけたものです。ディニズルは儀式の時に、南アフリカ産のアカシア・イエロー・ウッドで作ったおよそ1000個のビーズから成る12フィートの長さのネックレスを着用していました。この木は芯が柔らかく、生革の紐を端から端までかんたんに通すことができます。こうして1000個ものビーズが並べられるのです。ビーズそのものの大きさは小さな記章のようなものから、長さ10cmほどのものまであります。ネックレスは聖なるものと考えられ、王族や傑出した戦士に贈られる勲章でした。

B-Pは、ギルウェル訓練を修了した人々を称えるための記念品のようなものを探している時に、マフェキングで長老のアフリカ人からもらったディニズルのネックレスと革紐のことを思い出しました。B-Pは小さい方のビーズを二つ取り、芯をくり抜き、革紐をそこに通し、それをウッドバッジと呼んだのです。

この伝統は歳月を経て多くの各国連盟で維持され、ウッドバッジはいまでも上級訓練を修了した隊指導者に授与されています。

(World Adult Resources Hand book 2007 103章：歴史的背景 より抜粋)

ギルウェルスカーフは、ウッドバッジ実修所の修了者のみが着用できるネックチーフです。イギリス連盟がギルウェルパークを取得するにあたって尽力された、マクラーレン家のキルトの紋様（家紋）であるタータンの布章（パッチ）がつけられ、表面は肌色に近い色、裏の赤色は「指導者としての情熱を表す」色とされています。当初はマクラーレン家に敬意を表すために、マクラーレン家の家紋のタータン柄スカーフを着用したことがはじまりです。

その後、マクラーレン家のタータンは布章（パッチ）としてスカーフの先端に縫い付ける形になり、1924年からはウッドバッジを授与された者のみが着用できるよう、その使用が制限されました。

なお、ギルウェルスカーフは原隊と共に活動する際には着用しないことになっています。原隊での活動の際には、原隊のネックチーフにウォググルとウッドバッジを着用することになります。

おわりに

日本連盟における指導者訓練体系の中で、隊指導者訓練はその中核をなすものですが、訓練の効果を確実なものにするためには、コミッショナーの支援が必要不可欠なものです。指導者訓練の支援は、コミッショナーに課せられた多くの任務の中でも特に重要な任務であることを再認識するとともに、支援のクオリティを高めるための一助として本書をご活用いただければ幸いです。

しかし最も大切な支援は、「訓練の成果を活かしてよりよいスカウト活動を提供できるようにすること」であることを認識し、実修所修了後の指導者の皆さんへの継続的なご支援をお願い申し上げます。



課題研究提出用紙



ウッドバッジ実修所 第一教程（課題研究）

_____ 課程 提出日： 年 月 日

ふりがな		性別	男 ・ 女
氏 名			
所 属 連盟（..... 地区） 第..... 団..... 隊（役務）		

課題研究	指導を受けた人		指導・助言内容
	役 務	氏 名	
課題 1			
課題 2			
課題 3			
課題 4			
課題 5			
課題 6			

年 月 日

認定トレーナー署名（LT・ALT）(氏名) _____

＜ビーバースカウト課程＞

課題1	①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。 ②自隊のスカウトを観察し、スカウトが興味ある事柄を列挙してください。
課題2	課題1のニーズ等にビーバースカウト隊の活動目標を加味し、自隊で実施する隊集会実施計画書（1回分）を作成してください。
課題3	自隊の年間プログラムを評価し、問題があれば改善策とその理由を示してください。（年間プログラムを添付してください。）
課題4	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題2の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題5	スカウトを集会に参加させるために自隊で工夫していることを記述してください。さらに今後工夫しようと考えていることがあればあわせて記述してください。
課題6	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

＜カブスカウト課程＞

課題1	①自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。 ②自隊のスカウトの憧れや興味を調査し、集約してください。 ③地域社会におけるカブスカウト隊に対する期待を調査し、集約してください。
課題2	隊集会を行うためのプログラムプロセスを図示し、留意点を記述してください。
課題3	ある月の自隊のプログラムプロセスの実情を評価してください。問題があれば改善案とその理由を示してください。（プログラムプロセスには、プログラム会議・デンリーダー集会・デンコーチ集会・組長集会・組集会（1回～2回）・隊集会が含まれる。）
課題4	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題3の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題5	カブ隊の活動目標や進歩のあり方について、自隊の年間計画をふりかえり、その改善点を考えてください。
課題6	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

＜ボーイスカウト課程＞

課題1	班長会議を開催し、スカウトの憧れや興味を新たに集約し、 ①隊集会 ②班長訓練 の各計画書を作成してください。
課題2	課題1－①の隊集会を行うためのプログラムプロセスを図示し、実行のために必要な留意点を記述してください。（プログラムプロセスには、班集会、班長会議、班長訓練、班集会（班の活動）、隊集会が含まれていること）
課題3	自隊の現在の年間プログラムを活動内容および進歩課程の観点から評価し、改善点を記述してください。
課題4	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題2の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題5	実際に行われた隊集会3回分について、計画書を持参するとともに、プログラムプロセスの各過程それぞれの評価と改善点を記述してください。（行われていないプロセスの過程については行うための改善策を記述してください。）
課題6	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

＜ベンチャースカウト課程＞

課題1	スカウトのニーズにより作成された隊集会、またはプロジェクトの計画書作成までの間において、隊長として留意し、指導した点を記述してください。
課題2	ベンチャースカウト年代の特性を理解し、自治の活動により個人の成長を図るために、隊長の役割を果たす上で資質を向上するための自己研修をおこない、その内容・結果をまとめてください。
課題3	隊における役割（議長、グループのチーフ、記録、会計等）を遂行するために必要な、スカウトに対する訓練についてまとめてください。
課題4	①団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。 ②課題1の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。
課題5	ベンチャー隊の活動におけるプロジェクトとは何か、あなたの考えをまとめてください。
課題6	プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。



ウッドバッジ実修所 第三教程（実務訓練） ボーイスカウト課程

実務訓練は、ウッドバッジ実修所第二教程（基本訓練）を履修の後、履修者がどのように隊の指導をしたか、その状況をありのままに報告するものです。

したがって、第一教程（課題研究）や第二教程で得たものが、隊の運営にどのように反映し、隊活動がどのように改善されたか、また配慮した結果、隊活動がどのように変化し、進歩したかについて記録することです。

自分の隊をよくするために、どのように努力したのか、あなたの実践した記録をまとめ、自己評価とあわせて報告してください。

<課題>

- 課題 1 計画した隊集会およびプログラムプロセスの各過程を実施し、その状況報告と評価および今後の改善点について、報告書としてまとめてください。
- 課題 2 課題 1 で作成した実施報告書における評価と改善点に対する自己研修計画を策定し、最低 1 つの成果を報告してください。
- 課題 3 上記 1、2 の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

以上、第二教程履修後の実務訓練を、コミッショナーやトレーナーの支援を受けながら報告書を取りまとめ、実績を立証する記録資料（事例など）を添付して、第二教程履修日から 1 年以内に、所属県連盟コミッショナーへ提出してください。

<注意事項>

1. 報告書は、A 4 判横書きに記し、表紙をつけ課題ごとに問題を記述します。とじ方は、左とじとします。
2. 実務訓練報告書の提出先は、所属県連盟コミッショナー宛として、県連盟事務局へご提出ください。
3. 提出期限までに、実務訓練報告書を提出することが原則ですが、第二教程履修日から 2 ヶ年間経過した場合は、ウッドバッジ実修所の修了が認定されません。

（課題研究・基本訓練履修認定は、それぞれ履修日から 2 年間で失効します。）

実務訓練履修認定手順と書式について

第二教程履修者が、支援を受けながら実務訓練に取り組めるようにするために、支援がより明確に受けられる流れになっています。

支 援

1. 実務訓練の取り組み時の支援

第二教程（基本訓練）履修者は、コミッショナーやトレーナーの支援を受け、実務訓練に取り組みます。

2. 報告書の完成時の支援

報告書作成後、支援者（コミッショナーやトレーナー）に「指導助言した事項および所感」を様式1に記入していただきます。

3. 報告書完成後の支援

- ① 県連盟コミッショナーの所見を記入していただき、履修認定を行います。
- ② 隊指導者上級訓練課程修了者として、今後も自己研修に取り組みます。

実務訓練履修認定手順

手順1：第二教程履修者

- ① 実務訓練報告書（以下、報告書）に表紙（様式1）添付の上、支援者に提出し、「指導助言した事項および所感」を記入していただく。
- ② 所感記入後、所属県連盟へ報告書を提出する。

手順2：県連盟事務局

県連盟コミッショナーへ報告書を送付し、所見の記入と第三教程履修認定を受ける。

手順3：県連盟コミッショナー

報告書に所見を記入し、履修認定（様式1へ署名）を行い、県連盟事務局に返送する。

手順4：県連盟事務局

県連盟コミッショナーの所見と第三教程履修認定署名・捺印を確認し、日本連盟事務局へ様式1のコピーを送付する。（様式1の原本は、報告書と共に履修者に返却してください。）

手順5：日本連盟事務局

- ① 県連盟事務局より提出された様式1に必要な要件が記入されていることを確認し、修了証を交付する。初めて隊指導者上級訓練を修了した者にはウッドバッジ2ビーズ、ギルウェルウォグル、ギルウェルスカーフを同送する。
- ② 提出された様式1は日本連盟で保管する。

手順6：県連盟事務局

- ① 修了者へ修了証およびウッドバッジ他を伝達する。
- ② 報告書を返却する。

<様式1(A4判)>

ウッドバッジ実修所 第三教程（実務訓練）

課程第 期

所 属	連 盟 第 団 隊 (役 務) _____									
登 録 番 号										
フリガナ 氏 名										
住 所	〒 _____ TEL : _____									
生 年 月 日	昭和・平成 年 月 日生 満 歳									

課題	指導助言した事項および所感	指導した人
1		
2		
3		
4		
県連盟コミッショナーの所見・履修認定 <div style="text-align: right;">年 月 日</div> 署 名 _____ □		

※県連盟コミッショナーの履修認定後、本状コピーを日本連盟事務局へお送りください。

※日本連盟処理欄		修了年月日 年 月 日
----------	--	----------------

ウッドバッジ実修所「課題研究」「実務訓練」支援の手引き

平成24年12月	発行
平成25年3月22日	一部訂正
平成25年12月2日	一部改訂
平成26年3月1日	一部改訂
平成28年2月1日	一部改訂
平成31年2月1日	一部改定

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
指導者養成委員会 編

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟
